

社報 (株)南信サービス 2019年度環境活動報告

2020年7月発行《編集・発行元》(株)南信サービス | SO事務局

環境目標の取組み結果

1. 汚泥リサイクル施設使用燃料の完全自社再生油化（担当部署：営業部）

【目的】2023年度には汚泥リサイクル施設の使用燃料を全て自社再生油とするため、不足分の廃油を定期回収およびその他の回収で確保する。

【目標】2019年度は上記目的のため、2018年度購入再生油の15%に当たる廃油を、新規及びその他の回収で確保し、そのために回収ルートの効率化も図る。

汚泥リサイクル施設の稼働時間が増えたことで自社再生油だけでまかなえなくなり、現在は再生油を年何回か購入しています。そこで営業として廃油回収を増やすべく取組みました。

まず前年度の回収した量や購入した量、また顧客の種類や方面及びルートなどの現状を把握しました。そして、その結果を踏まえて対策・方法を検討して実施していきました。

結果としては2月に大口の回収があったため目標を達成できましたが、回収量を増やすことは予想以上に大変でした。また、現在の回収ルートのままだと定期的に回収する量を増やすのも限度があるため、その点も含めて来年度の取組みをしていこうと思います。

2. 運転手の労働災害対策（担当部署：業務部車輛課）

【目的】運転手の労働災害の要因を無くすことで労働環境の改善を目指す。

【目標】昨年度に引き続き対策を行い、今年度労働災害0を達成させる。

昨年に引き続き運転手の労働災害0を目標に対策を行いました。

昨年は要因の上位1位と2位に対して対策したので、今年は上位3位と4位に対して対策しました。

3位は足を滑らせて転落への対策としてフルハーネス型墜落制止用器具の講習を受講しました。中部労働技能教習センター様より講師の方を招き、当社の社員が出来るだけ受けられるよう会社にて受講しました。2022年以降は現行の墜落制止用器具は使用できないということなので、今まで使用していたものからフルハーネス型へ移行させていきたいと思っています。4位は熱中症の対策として講習会を受講したが、当社の作業形態にはあいませんでした。体調チェック実施の必要性を講義でしていたため、体調チェックをしたところ作業員の注意に繋がったと思われます。逆に最初使用したクールベストについてはあまり効果がありませんでした。

結果目標は達成出来ましたが、油断しないよう継続していきます。

3. 収集運搬車輛の臭気対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】汚泥運搬車輛（ダンプ等）の臭気を削減させることで臭気苦情0を目指す。

【目標】昨年度に引き続き対策を行い、今年度臭気苦情0を達成させる。

前年度より臭気苦情0を車輛課として目指すべく取組みました。

具体的には、ダンプで脱水汚泥を運搬中に出る臭気を出来るだけ抑えようということで、前年度ダンプに取り付けた消臭剤噴霧器を利用しての効果を検証しました。

結果としては消臭剤噴霧器を後付けしたダンプに関しても臭気はかなり抑えられていました。（元からのダンプとの差は特に感じなかった）あと停車時だけでなく、収集運搬中の臭気を測定してみましたが、運搬中は測定値0ということで臭気は出ませんでした。

今回はまた前年の結果等により冬季は消臭剤噴霧器の使用はしませんでした。結果としては臭気苦情0を達成することが出来たので良かったです。今後もこの結果を踏まえて冬季以外は消臭剤噴霧器を使用していくことで臭気を抑えていけたらと思います。

4. 工場の労働災害対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】工場内の労働災害の要因を無くすことで労働環境の改善を目指す。

【目標】昨年度に引き続き対策を行い、今年度労働災害0を達成させる。

前年度より工場内の労働災害0を目指して取組みました。

取組み内容としては、昨年度策定した危険作業箇所のリスクアセスメント表に基づいて今年度の対策場所を選定し、それに沿って対策を行っていくというものでした。

特に主だったものとして今年は注意喚起表示を各施設に設置しました。

また昨年度に引き続き熱中症対策にも取組みました。最初は熱中症対策グッズを検討しましたが、社長から創意工夫で物に頼らないように指示があったため、日中はシャッターや窓の開放による空気の流れをすることで体感温度を下げることになりました。当社は天竜川沿いにあるため、川の風が特に午前中は涼しく感じられる日が多くあり効果がありました。ただ午後になると暑く感じられるので来年の課題となりました。

次年度も取組むので、熱中症対策を継続していきます。労働災害0を継続していけるようがんばりたいと思います。

5. 工場の臭気対策（担当部署：業務部施設課）

【目的】工場内の臭気要因を全て特定し、臭気苦情0を目指す。

【目標】昨年度に引き続き対策を行い、今年度臭気苦情0を達成させる。

工場からの臭気苦情0を目標に昨年度より活動しています。

2019年度は工場として汚泥リサイクル施設と油水分離処理施設の2箇所における臭気対策を行いました。

まず汚泥リサイクル施設の臭気対策ですが、当初からの計画は何度か稟議が通らなかったため変更を重ね、2020年度に消臭剤自動散布機を汚泥受入棟の入口に設置を目指すことになりました。

油水分離処理施設では臭気を減らす運転方法を模索し、有効と思われる方法を最終的に4つ手順化出来ました。硫化水素の発生を減少させることが出来れば良かったのですが、それが出来なかったのが次年度の課題とします。発生抑制は難しいと思うので、発生したものが周囲に漂わないような方向で考えていきたいと思っています。

次年度引き続き取組みするのですが、方向性は決まっているのでそれに向かってがんばりたいです。臭気苦情は0でしたが、それに驕ることなく更に臭気の出る可能性を減らせるよう取組みしていきます。

6. 環境保全意識の向上（担当部署：全部署共通）

【目的】環境保全活動への取組みなどにより、環境に対する意識の向上を目指す。

【目標】環境保全活動を行いつつ、社員の環境に対する意識改革の方法を2件実行する。

社員の環境に対する意識を向上させるべく毎年取組みしています。

当社の強みを生かすべく行っている防火水槽の清掃ですが、2019年度は松川自治会様の2箇所以外に城北自治会様より打診があったために9月に清掃を実施しました。

また廃棄物の会社ということではありませんが松川自治会様のゴミ拾いを2回実施しました。

また2019年度は意識改革ということで、安全衛生推進者会議を毎月開催するようになりました。各課より安全衛生推進者を選任することにより、以前より社員に向けた発信が出来るようになったと思います。

それから以前より実施していた安全パトロールですが、それぞれの課長がずっとやっていたものを安全衛生推進者が入れ替わり行うようにし、マンネリ化せず新たな視点から見られるようになりました。

その他エコキャップ活動や、協会のゴミ拾い活動に参加しました。

リスク及び機会

■ リスク

臭気騒音発生及び労働災害等による社会的信頼性低下及び労働環境悪化、他社との価格競争激化及び処理原価上昇による利幅減少、自然災害の影響による作業の停滞等、環境意識低下による社会的信用性低下及び環境悪化、従業員の感染症等による運搬量処理量の低下

■ 機会

法等規制強化対応による社会的信頼性向上、適正な教育を受けた力量を持つ人員確保による遅滞ない処理、設備投資による設備改善及び遅滞ない処理

< 潜在的な緊急事態 >

施設全般	火災や地震等による設備の故障や焼失等、及び消火剤等の河川への流出
油水分離処理施設	油類漏洩による河川への流出 硫化水素発生による拡散
油水分離、有機 収集運搬業務	天竜川への排出水が汚濁（水質悪化） 車輻事故及び故障による荷物の漏洩等

環境側面報告

■ プラスの著しい環境側面

- ・ 会社全体 自社処理働きかけ、資格取得、臭気騒音監視活動
- ・ 収集運搬 汚泥収集、廃油収集
- ・ 汚泥リサイクル施設（焼却） 再生油使用、ばいじんリサイクル
- ・ 汚泥リサイクル施設（乾燥炭化） 再生油使用、炭化物リサイクル
- ・ 有機性汚泥処理施設 処理水還元
- ・ 油水分離施設 処理水還元、無機汚泥リサイクル、再生油精製

■ マイナスの著しい環境側面

- ・ （なし）

環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

■大気汚染防止法	遵守しています
■水質汚濁防止法	遵守しています
■廃棄物処理法	許可更新あり 産廃収集運搬（岐阜県〈優良〉）
■消防法	遵守しています
■ダイオキシン類対策特措法	遵守しています
■P R T R法	遵守しています
■毒劇物法	遵守しています
■省エネ法	該当せず
■温対法	非エネルギー起源…該当（報告書提出）
■小型家電リサイクル法	実績なし
■家電リサイクル法	変更なし
■自動車リサイクル法	大型吸引車1台入替えあり
■オフロード法	実績なし
■グリーン購入法	遵守しています
■フロン排出抑制法	遵守しています
■肥料取締法	遵守しています
■放射性物質汚染対策特措法	遵守しています
■環境教育推進法	遵守しています
■河川法	遵守しています
■労働安全衛生法	遵守しています
■環境配慮契約法	適合しています
■地元協定	適合しています

2019年度遵守状況の評価の結果、遵守されていました。
違反、訴訟等もありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し

労災0臭気苦情0はぜひとも続けてもらいたいが、三者協定では騒音も
となっているので取り組んでみたらどうか。この先について長期的に考え
てやっていてもらいたい。人員の運用や配置の計画を立てて具体的な要
望があるといい。会社として、まずは油水分離施設強化工事が出来るよう
がんばっていく。

環境方針

当社は、廃棄物の収集運搬及び中間処理事業活動を通して、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことで、環境汚染予防及び関連するその他の環境保護に取り組みます。

関係する環境関連法規、条例、地元協議及び同意するその他の要求事項を遵守します。

また、以下の事項を考慮に入れつつ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を設け、その達成に向けた活動を定期的に見直しなが推進します。

1. 廃棄物処理施設の運転管理向上
2. 資源・エネルギーのリサイクル向上
3. 廃棄物量削減
4. 環境保全意識の向上

以上を指針とし、地域社会に貢献するとともに、自然環境を尊重し、明るい未来のためにまい進します。

2016年2月6日 代表取締役 竹村 博文

組織図

